

釧路湿原自然再生協議会  
第25回 再生普及小委員会  
議事要旨

日時：平成27年7月10日 金曜日 13:30-15:30

場所：釧路地方合同庁舎5階 第1会議室

1. 開会
2. 議事
  - 1) 再生普及小委員会の活動報告
  - 2) 行動計画の改訂について
  - 3) ワンダグリンド・プロジェクトの今後について
  - 4) (仮)「再生普及行動計画推進チーム」の設置について
  - 5) (仮)「湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」の設置について
  - 6) その他
3. 閉会

【議題1. 再生普及小委員会の活動報告】

【議題2. 行動計画の改訂について】

事務局 環境省 渡邊

資料説明（資料1-1, 1-2, 1-3, 2-1, 2-2）

高橋委員長

体制やシステムの変更点は、再生普及小委員会に関するところである。新たに地域づくり小委員会が立ち上がり、再生普及小委員会が全体に関わるような形に構造が変化した。これらの変更に伴い、役割や活動範囲に変化が生ずると思われる。

さらに小委員会の内部にあった、「行動計画ワーキンググループ」と「環境教育ワーキンググループ」を解散し、新たに「(仮称)再生普及行動計画推進チーム」と「(仮称)湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」がスタートする。

【議事3. ワンダグリンド・プロジェクトの今後について】

事務局 北海道環境財団 安田

## 資料説明（ワンド・グリンダ・プロジェクト 2014 活動報告（案））

高橋委員長

「再生普及行動計画オフィス」という言葉について説明いただきたい。

事務局 環境省 渡邊

再生普及行動計画の事務局を「再生普及行動計画オフィス」として位置づけ、一般からの問い合わせ対応やワンド・グリンダ・プロジェクトの参加者との打合せなどを行っている。

高橋委員長

2013 年までの活動報告は、各活動団体からの報告を基に毎年小冊子を作成し、配布していた。

今回から、より簡単な活動報告とし、5 年経過毎に総合版の小冊子を作成する予定である。

新庄 委員

ワンド・グリンダ・プロジェクトとはどのようなものかと聞かれた際に、「皆で集めた釧路湿原の応援団が地域と自然再生をつなぐこと。」とまとめると良いのではないかと。

高橋委員長

ワンド・グリンダ・プロジェクトがスタートする当初に掲げられた再生普及小委員会のキーワードが「市民参加」である。市民が参加できる企画・活動が主体であり、それに基づいた事柄を計画、実行してきている。

緩やかな活動から、学術的な活動まで様々なものが許容されていると考えていただきたい。

### 【議事 4.（仮）「再生普及行動計画推進チーム」の設置について】

事務局 環境省 渡邊

資料説明（資料 4-1, 4-2, 4-3）

新庄 委員

事務局の説明に補足する。

資料 4-1「3. 構成」、「4. 会合開催方針」、資料 4-2<その他>の中にある「その他」の記述は必要ない。

資料 4-3「4. 釧路湿原自然再生協議会基金の活用促進（行動計画 3-3 関係）」は、前述の 1. 2. 3 とは同じ位置づけではなく、協議会から要請されて検討するものである。

事務局 環境省 渡邊

そのように整理する。

高橋委員長

毎年少しずつ増えている寄付からなる基金に関しては、有効利用し利用報告を行う義務がある。積極的に推進チームで考え、2月若しくは3月に開催予定の釧路湿原自然再生協議会で提案したい。

渡辺 委員

このチームは、内容的には1-3のように各小委員会と連携して情報の収集・普及の検討をするという性格のものではないかと思う。そう考えると、4の基金については、他の委員会はあまり関係なく、再生普及小委員会そのものが考えるべきテーマで、はずした方がいいのではないか。いまさらだが、チーム名も委員会間連携が明確になる方が良かったかもしれない。

新庄 委員

基金に関しては再生普及小委員会で検討した方が良い。

高橋委員長

推進チームの名称について、「推進」、「連携」の両方を入れるのはどうか。

西山 委員

連携を推進させるのではなく、行動計画を推進するために連携するチームなので、「推進連携チーム」が適当である。

君塚 委員

これまでの5つの小委員会は物理的な委員会であるが、今回できる「地域づくり小委員会」での議論が興味深い。文化的な視点が薄くなる現状も懸念されるため、そこを担保する「地域づくり小委員会」の役割は重要である。

釧路湿原流域の人たちに、文化的な色合いを持ちながら、自然再生について理解してもらうことが重要である。

高橋委員長

名称は「再生普及行動計画推進連携チーム」で良いか。

新庄 委員

漢字ばかり並ぶのはどうか。

清水 委員

名称は平仮名混じりが良い。

これまでの進め方では市民から隔離されてしまうと感じている。

高橋委員長

市民参加に繋げることが課題であり、努力すべきことである。

菊地 委員

再生普及小委員会の横断的な活動や指針をつくるため、活動を推進する連携チームは非常に重要な役割を果たすので、名称は分かり易い方が良い。

久保田 委員

名称は短い方が良い。「再生普及推進連携チーム」でどうか。

新庄 委員

「湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」と合わせ、「再生普及推進のための連携チーム」が良い。

高橋委員長

「再生普及推進のための連携チーム」と決定する。

西山 委員

「再生普及行動計画ワーキンググループ」を終了し、その一部の議論を再生普及小委員会本体で行うことになった。一方で、再生普及小委員会が各小委員会に横串を通す形になる大きな変化があり、それらの連携部分も含めてすべてを受け持つことは、若干動きが重くなる部分が考えられるようになった。

そこで、全ての小委員会を背負う人が確実に含まれ、且つフットワークが軽く、再生普及小委員会のプロジェクトチームのようなものが必要であると考えられて、今回のチーム誕生となった。

25頁にある小委員会事務局の記載は、これは記載された4つの行政機関が重要ではなく、責任を持って全ての小委員会を背負ってくれる人が網羅されていることに意味がある。

そのような意味で、「再生普及推進のための連携チーム」という名称は、当初の案の名称よりもより良い名前になったと考える。

高橋委員長

これまでと少し役割が変わったことから、行うべき事柄の範囲や視点が変わるため、確認しながら行動する必要がある。私も含め、これまで携わってきた人がまた参加することにより、今まで通りの目で物を見てしまうことがある。今後は、変化した役割の立場を確認した上で参加していただくことになる。

【議事5. (仮)「湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」の設置について】

事務局 環境省 渡邊

資料説明 (資料 5-1, 5-2, 5-3)

高橋委員長

これまでの「環境教育ワーキンググループ」から「(仮) 湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」に変更することが一番大きな変更点となる。

これまででは学校教育の関係者が参加していなかったことで、学校教育とあまり密接な繋がりを持てなかった。そのため、教員が会議に出席可能な日程等の情報も無かった。

ワーキンググループがより有効に機能するためには、教育委員会、学校教員、実際に子供と一緒に活動している活動団体の方たちに協力を依頼する。

これまでの環境教育ワーキンググループは、社会教育の中での環境教育も視野に入れていたが、今後は切り離して考えていく。

北海道教育大学釧路校の境准教授は大学の専門が教育方法論であり、理科の教材開発が専門である。社会科やそれ以外の科目の環境教育などを積極的に考えて必要に応じて人材を探したい。

名称等を含めて、意見を伺いたい。

近藤 委員

中学校の社会と理科の教員参加についても考えていただきたい。

高橋委員長

標茶高校の先生は来ていただけないか。釧路市内の教員で作る環境教育の研究グループに中学校教員が参加していないか調べる。

名称は「湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」でスタートする。

【議事6. その他】

渡邊 委員

4月にこちらに異動になった釧路開発建設部治水課の渡邊です。

茅沼地区の旧川復元が土木学会から表彰された概要を報告する。

土木学会では年1回土木に関する表彰を行っており、今回は自然再生協議会が茅沼地区の旧川復元について表彰を受けている。

主な受賞理由は、氾濫原の再生により約30haの湿地と湿原植物が回復したこと、生息魚種の種数が約2倍、個体数が約2.5倍に増加したこと、旧川復元区間が新たな観光資源として地域振興に貢献したことである。このように具体的な数字の変化を示すことができた優れた取組みであると認められた。

事務局 環境省 渡邊

今後の予定について連絡する。

「再生普及推進のための連携チーム」会議は、7月24日13時から14時30分に開催予定。

各メンバーの方は参加いただきたい。

「湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」会議は、8月6日10時から11時30分に合同庁舎で開催予定。

次回の再生普及小委員会は、12月頃の開催を予定している。

=閉会=